

提供募ったら…「アベノマスク」最多

A あま市6カ所の回収箱

一時は全国的に不足していたマスクを確保しようと、あま市は6月から今も市民に提供を呼びかけている。市の集計によると、11月末までに約1千枚が集まった。手作りのマスクが数多く寄せられた一方、最も多かったのは政府が全国の世帯に配布した布マスク、通称「アベノマスク」だった。

あま市が未使用・未開封のマスクを集めるため、市内6カ所に回収箱を設置したのは6月10日。7月末までに319枚が集まった。一時は店頭から消えていた市販の



マスクも流通が復活し、11月は27日までで35枚だった。時期によって提供数は増減している。9月には手作りのマスクが集中。七宝公民館の回収箱だけで130枚も寄せられるなど、計368枚(うち手作りは193枚)となった。

11月27日までの累計は計974枚で、政府配布の布マスクが最も多く8分の1に達する316枚。以下、「手作り」「市販の布製」「不織」となっている。市健康推進課の担当者「当初の予想より多くいただいた感謝している。マスクの供給は落ちている状態だが、有効利用します」と話している。回収箱は12月末まで設置する。マスクは年明けに市内の各種福祉施設に分配する予定。(目黒照仁)

市内6カ所で12月末まで置かれるマスクの回収箱―あま市の基自等保健センター